

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870501438
法人名	有限会社 芳光
事業所名	グループホームおくじま
所在地	愛媛県新居浜市北新町12-52番地
自己評価作成日	平成25年5月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成25年6月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

地域とのつながりを大切にし、入居者さんが元気でゆったりと笑顔で過ごせるように努めている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<ul style="list-style-type: none"> ●事業所のすぐそばにある公園に散歩に出かけ、敷地内にある図書館で本を借りることを楽しみにしている方がいる。建物1階の、法人デイサービスの行事には、利用者も参加して交流されている。 ●事業所では、「食品衛生の点から」お刺身が食卓に上がることがないため、今年度は敬老の日に、配食サービス会社による「マグロの解体ショー」を実施し、みんなで刺身やアラの味噌汁等を食べてお祝いされた。利用者にも好評だったようで、今後も続けたいと考えておられた。 ●利用者は、時代劇等、テレビを見るのが好きな方が多いようだが、座りっぱなしにならないように、ゲームや体操する時間も設けておられる。薬の作用で、日中にも居室で昼寝する時間が長い利用者の方には、目覚めた時には居間でティータイムすることを誘うようにされている。利用者の希望で、居室の扉に鍵を付けている方がおられ、ご本人が居室を離れる時には、職員に施錠するよう依頼される。鍵をかけたことを確認すると、ご本人は安心されるようだ。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11, 12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームおくじま

(ユニット名) 雅(みやび)

記入者(管理者)

氏名 園部ちず子

評価完了日

平成25年 5月 20日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念は職員が意識出来るようスタッフルームに掲示し、常に念頭において入居者を支援できるよう心がけている。	
			(外部評価) 事業所は、「私達は地域の中で信頼され、ふれあいのできる施設をめざします。」と理念をつくり、玄関や事務所に掲示されており、さらに、毎年度、理念に沿って目標を立てて、理念の実践への取り組みをすすめておられる。管理者は、職員が日々のケアを振り返ることができるように、勉強会時に理念や目標にふれながらお話をされている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の自治会に加入し行事に参加させてもらっている。また、運営推進会議にも参加してもらっている。	
			(外部評価) 秋祭りの太鼓台を利用者が喜ばれるため、事業所で10分長く滞在できるように自治会長がスケジュール調整をしてくださった。ボランティアの方が来られ、三味線の演奏を聞かせてくれたり、地元につながる歌を歌ってくださったり、利用者からのリクエストに応じてハーモニカを吹いて楽しませてくれている。毎年、看護専門学校の生徒2～3名を実習に受け入れておられる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、認知症についてのテーマを取り入れ、地域の人達にも、支援のあり方、介護についての意見を聞くことで、事業所の評価につながられている。また、地元の看護学生の実習も受け入れている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 市役所、自治会長、民生委員、地域の方、入居者参加で2ヶ月に一度開催し、入居者の状況・認知症について・勉強会の報告をしている。 委員の方々に意見をもらっている。	
			(外部評価) 会議時には、事業所の状況や行事の報告を行ったり、「ターミナルケア」「災害対策」「認知症について」等、事業所として、気になることをテーマにして意見交換されている。「口腔機能と食事の加工の仕方」や「口腔ケア」を取り上げた際には、参加者から「ためになって良かった」と喜ばれた。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市より光化学スモッグや感染症、介護の情報を随時届けてもらっている。2ヶ月に一度、介護相談員の訪問もあり、多彩なアドバイスを頂き、サービスの質の向上に努めている。	
			(外部評価) 介護相談員の訪問時には、居室で利用者とお話をさせている。利用者から、事業所サービスについての感謝を聞き取ってくださったり、食事の味付け、食べたいもの等についても探ってくださっており、香川県に住んでいたことがある利用者から「うどん」のお話が出たことを報告いただき、みんなでうどん作りを行ったようなこともあった。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 入口の施錠はせず、両ユニット間を自由に行き来している。言動に気をつけ、職員間で声を掛け合い、見守りを重視するケアを心がけている。	
			(外部評価) 毎月の勉強会時、職員から身体拘束や虐待に関して意見が出されたことをきっかけに、年1回、研修会を開催されている。「気になる職員の行動」があり、法人代表と管理者が相談して、今年度より居間の2ヶ所にカメラを設置している。現在は、気になる職員は退職されたが、「カメラの設置は継続していく」とのことである。職員は、カメラがある場所で休憩時間を取ることもあるようだが、「あまり気にならない」「慣れた」というような感想もあるようだ。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待は入居者の尊厳を精神的・肉体的に傷つける行為であるため、勉強会やミーティングで話し合い職員が共通理解できるようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 具体的事例は無いが、全職員が理解出来るよう学習している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時、ご家族に各項目にそって説明し、十分理解して頂いたうえで、契約書を交わしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関に意見箱を置いている。 面会時に、必ずご家族に声をかけ希望や思いを汲み取れるよう心掛けている。契約時に遠慮なく要望を伝えて下さるよう話している。 (外部評価) ご家族には、毎月の送付書類とともに、手紙や写真を同封して利用者の日々の暮らしの様子を知らせておられる。遠方に住むご家族には、電話や手紙等で様子を知らせ、要望を聞くようにされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月一回運営会議、ミーティングを開き、職員の意見や提案を前向きに検討し、運営に反映できるように努めている。	
			(外部評価) 勉強会やミーティングには、職員は全員参加するようになっており、都合により欠席した場合には、議事録で内容を確認したり、職員間で情報共有する仕組みを作っておられる。入居前から複数のおかずを混ぜて食べる」ことが習慣となっている利用者がおられたが、職員間で情報交換しながら、支援をいろいろ試して、一品一品味わいながら食事ができるようになられたような事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 目標設定及び自己評価を取り入れ目標を持って就業出来るよう取り組んでいる。希望の研修に参加出来るよう配慮している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 段階に応じて研修に参加している。研修後はミーティング時に報告し情報を共有している。研修で学んだことは現場で実践につなげている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) ケアマネの地域密着型部会に参加し交流を図っている。また、愛媛県地域密着型サービス協会に加入し、県内の研修に参加し意見交換を行っている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 家族やケアマネからの情報と、本人の話を傾聴し、不安や要望を受け止め、サービス内容を一緒に考えるように努めている。また、寄り添いゆっくり話を聴くことで、信頼関係構築に繋げている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居相談に来所された時、状況やご家族の要望ををよく聞き経験に基づきアドバイスすることもある。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居者の在宅での生活を尊重し、出来る工夫をして馴染んでもらえるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 掃除や洗濯たたみ等、入居者各々のできる事で、支え合えるような関係作りに努め、無理なく継続できるように対応している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人と家族の関係を十分理解し、報告・相談を密に行い、面会や外出を依頼したり、共に支援していくようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの美容院の方が訪問カットして下さる方もおり、家族だけでなく友人や近所の方の面会が多い。面会時は必ず挨拶したり一緒に会話したりして来やすい雰囲気作りに努めている。 (外部評価) 事業所のすぐそばにある公園に散歩に出かけ、敷地内にある図書館で本を借りることを楽しみにしている方がいる。建物1階の、法人デイサービスの行事には、利用者も参加して交流されている。ご家族が来訪された際には、居室でゆっくりお話できるようにお茶等を用意されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者同士の日頃の様子に留意し、洗濯物たたみなどの声掛けや席の位置にも配慮している。レクリエーションやお手伝いなども職員が関わることで皆が一緒に楽しく過ごせるように支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入居中の生活の様子等を詳しく情報提供し、面会に行ったり家族の相談を受けている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) それまでの生活の様子や本人の希望をよく聞くように努めている。自分の思いを大切に生活にはりを持って過ごせるよう工夫している。 (外部評価) センター方式のアセスメント表を用いて、幼少期や結婚、子育て期～壮年期～老年期等の項目に分けて、当時の暮らしぶりや嗜好について情報収集されており、ご家族に記入をしていただいたり、聞き取り情報収集されている。又、入居後に得た情報は、毎年更新して、介護計画につなげるようにされている。お誕生日の方には、食べたい物をお聞きして、ちらし寿司や炊き込みご飯を作っておられる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に本人、ご家族から今までの生活の様子をフェイスシートに記入してもらっている。入居後も日常の会話からわかったことを記録している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日常の様子を一人ひとり記録し健康状態、思い、出来ることを知り情報の共有をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 入居者ごとに担当スタッフを決め、ミーティングで話し合いご家族の意見もうかがっている。入居者主体の目標を立て、個別性のある介護計画の作成を心掛けている。</p> <p>(外部評価) ご家族やご本人の希望を踏まえ各ユニットでミーティングを開き、利用者個々の担当職員が中心となって、ユニット全職員の意見を聞きながら介護計画を作成されている。手の腫れがひどく、お箸を持つのも難しかった利用者がおられたが、介護計画に採り入れながら手浴や、ハンドマッサージを支援して、改善傾向にある利用者もいる。利用者は「手がきれいになってうれしい。」と喜んでおられ、さらに、外出へも、以前より意欲的になられたようだ。ご家族が持ってこられたぬり絵をされる方や、字を書くのが得意な利用者には、職員が練習用紙と筆ペンを用意して字を書く機会を作っておられる。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個別に記録し、一日の様子がわかるようにしている。情報を共有しながら、日々のケアに活かすと共にミーティングで話し合い介護計画を立てている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 本人や家族の個別事情や、ニーズに対して出来る限り柔軟に対応できるように努めている。デイサービスの音楽療法にも参加している。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議に自治会長や民生委員さんが参加されており、地域の情報を教えてもらったり、グループホームの活動に協力してもらっている。また、希望に応じ隣の理容院も利用している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入居前からの主治医に受診してもらっている。受診時は日常の様子を情報提供している。また容態に応じ往診を受けている方もいる。	
			(外部評価) 利用者それぞれのかかりつけ医に診てもらえるよう支援されている。状態によっては往診を受ける方もいる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 看護師が常勤しており、体調不良時の対応や日々の健康管理を行っている。介護職員は、入居者の日々の状態把握や様子観察を行い、異常の早期発見に努めている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院時は医療機関に情報提供している。また、退院に向けても医療機関やご家族と連絡を取って情報交換をしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時にホームの対応について説明している。重度化に向けては早い時期から相談を重ね、意思確認をしながら状況に応じ対応している。	
			(外部評価) この一年間では、1名の利用者の看とりを支援された事例がある。食事が摂れなくなった時点で、今後のことについて話し合い、ご家族は、点滴することを希望されたようだ。職員は、看とりを経験して、「利用者ご本人が最期をどのように迎えたのか」ということについて情報を集めておくことの大切さを感じられたようだ。管理者は、今後さらに「意識がなく言葉も出ない状態になっても、穏やかな表情で最期を迎えることができるように、家族、医師、事業所の信頼関係を築いていきたい。」と話しておられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急対応のマニュアルを作っており、救急手当てなどを勉強会で確認している。夜間帯の救急対応も折に触れ確認している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害時のマニュアルを作っており、年2回避難訓練を実施している。参加できない職員にも周知している。災害発生時は地域の方にも協力を依頼している。	
			(外部評価) 他県のグループホーム火災発生を機に、同月の運営推進会議では、消防署の方の協力を得て、市内のグループホームのスプリンクラーの設置状況や初期消火についてお話をさせていただく機会を作られた。参加していた地域の方には、あらためていざという時の協力をお願いされた。夜間想定火災訓練を実施した際には、消防署の立ち会いのもと、利用者も実際に参加して避難誘導の訓練を行ったり、初期消火訓練を体験された。	
IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入居者一人ひとりの思いを大切に、言葉のかけ方や姿勢に留意するよう努めている。プライバシーに配慮するように心がけている。	
			(外部評価) 管理者は職員に、「早くして」、「お箸置かんと食べて」等、「職員の都合を優先した声かけ」や「決めつけの声かけ」をしないように話しておられる。そのような場面が見受けられた際には、管理者がその場で注意をされる。利用者は、時代劇等、テレビを見るのが好きな方が多いようだが、座りっぱなしにならないように、ゲームや体操する時間も設けておられる。薬の作用で、日中にも居室で昼寝する時間が長い利用者の方には、目覚めた時には居間でティータイムすることを誘うようにされている。利用者の希望で、居室の扉に鍵を付けている方がおられ、ご本人が居室を離れる時には、職員に施錠するよう依頼される。鍵をかけたことを確認するとご本人は安心されるようだ。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 入居者の話をゆっくり聞き、自分の思いを言葉に出来る雰囲気作りをしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一日の生活の流れはあるが、入居者一人ひとりのペースを把握し、笑顔でゆったり過ごせれるように心がけている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) その人にあった髪型や洋服など、好みのものを着ている。美容院で毛染めされたりしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 入居時に嗜好を本人、家族に聞き献立に配慮している。一緒に準備や片付けを手伝ってもらっている。	
			(外部評価) 週3日は、外部からの配食サービスを利用しておられ、食材が冷凍、真空パックで届くようになっている。事業所で温めたり、フライを揚げる等されている。ご飯と汁物は職員が手作りされる。週に4日は、職員が食材の買い出しに行き、利用者の好みを探り入れた献立で手作りされている。利用者は、もやしの根とり等の下ごしらえをしたり、テーブル拭きや下膳等できることを行なえるよう支援されている。事業所では、「食品衛生の点から」お刺身が食卓に上がることがないため、今年度は敬老の日に、配食サービス会社による「マグロの解体ショー」を実施し、みんなで刺身やアラの味噌汁等を食べてお祝いされた。利用者に好評だったようで、今後も続けたいと考えておられた。スパゲティー、カレー、丼物も「お箸で食べたい」という利用者が多いため、スプーンとお箸の両方を用意し、お好きな方で食べられるようにされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) バランスのとれた食事を心がけている。食事量は毎食個々に記録し、体調に合わせて献立を変更したり、食べやすい工夫をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後歯磨きをしている。個々の能力に合わせて支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの排泄パターンを把握し、それぞれに合わせた声かけや誘導をしている。失敗せずトイレで気持ち良く排泄できるよう支援をしている。	
			(外部評価) トイレ介助時職員は、「自分だったらイヤと思うことはしない」よう心がけ支援されている。できる事はなるべくご自分で行なえるよう支援に努められ、トイレの扉を閉め、外で待ったり、頃合いをみながらさりげなくサポートして支援されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分補給を心がけ、ポカリ寒天などを用いている。また、日中リハビリ体操等して、身体を動かす機会を設けている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日午後より入浴している。その時の体調や要望を聞きながら臨機応変に支援している。	
			(外部評価) 毎日午後から、利用者個々に週に2～3回入浴できるよう支援されている。浴室は、一般的な家庭用の浴槽となっており、シャワーチェアや足浴用の洗面器も置かれてあった。車椅子を使用する利用者は、「バスタオルを巻き」足浴しながらシャワーするようになっている。「お風呂に入りたくない」という方には、浴室近くまで行き、「ここまで来たので入りますか。」と声かけすると入れられることもある等、職員は経験等の情報を共有して支援に取り組まれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの状態を確認しながら、休息時間を設けている。夜間は良眠できるように、日中の活動に配慮している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 全職員が把握できるように、薬の内容や作用などを一覧にしている。薬変更時には管理日誌で申し送りをしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 洗濯たたみ・食器洗い・食事の盛り付け等それぞれの力に応じて役割をもって過ごしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 季節を感じられるように、ドライブや買い物、散歩を楽しんでいる。ご家族とともに定期的に買い物や外食に行かれる方もいる。 (外部評価) 職員と近所のショッピングセンターに出かけ、おやつを買ったり、好みの洋服を選ぶ等、買い物を楽しむ方がおられる。事業所周辺には、桜、つつじ等、季節の花の咲く公園がたくさんあり、日々散歩したり、数名で何回かにわかれてドライブに出かけておられる。お花見の時期には、お弁当を持参して楽しめることもある。	さらに、利用者個々のこれまでの社会性等も探りながら、個々が地域とつながりを持って暮らし続けられるような支援にも取り組まれてほしい。利用者の生活を地域の中へ広げていかれてほしい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 希望に応じお金を持っている。外出できない方も本人の安心のため財布、鞆を目につくところに持っておられる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) その人に応じて、家族に電話したり、手紙やハガキを持ってきて下さっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 共用スペースは、清潔安全を心がけ、適度な室温や照明に気を付けている。写真や季節の飾りを会話を楽しみながら一緒に手作りしたりしている。</p> <p>(外部評価) 居間の一角には畳スペースがあり、テレビを見たり、横になって休憩できるスペースとなっている。テーブルには、紫陽花が活けてあり、壁面は、ひまわりの造花でデコレーションして、季節感を演出しておられ、外出時やおやつ作りの写真を掲示されていた。又、アルバムを置いてご家族来訪時に見てもらおうようなこともある。ベランダには、ペゴニアやミニトマトの鉢を置き、利用者が水やり等をされている。洗濯物たたみの得意な利用者が率先してたたんでくださっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 共用空間にはテーブル、ソファ、畳コーナーがあり、それぞれが好きな所で過ごされている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 馴染みの物、思い出の品等を持ってこられ、それぞれの好みの部屋になっている。御主人やお孫さんの写真などを飾られている。</p> <p>(外部評価) 利用者が気持ちよく眠れるよう頻りに布団を干すようにされている。洋服ダンスとベッドは備え付けとなっているが、カーテンは個々が持ち込み、各室、色柄等、好みのものをつけておられた。お孫さんの家族が手作りされたサイドボードを置いている方があり、調査訪問時、「作ってくれたんよ。」と笑顔で話してくださった。ご主人の遺影や仏壇のお供え物や水の取替えは、利用者のご自分で行えるよう支援されている。編み物のお好きな利用者は、毛糸で編んだドレスを着せたお人形を持って来られていたり、自作の折り紙を飾っている方もあった。居室の掃除は主に職員がされるが、職員がモップがけを始めると、利用者が掃除機をかけてくださるようなこともある。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 各所に手すりがあり段差のない環境としている。自分の部屋もわかりやすいよう飾りをつけたり声掛けをしたりしている。</p>	